



# 夕張市成人祭開催される

## 1市4町の会 新春キャラバンで訴え

### 参加した24名の 新成人を祝う

9日(土)拠点複合施設りすたで、夕張市成人祭が行われ、小雪が降る中、ご

日本共産党夕張総支部は、家族とともに成人祭に参加したみなさん、新型コロナウイルスが2020年、学校が一斉休業となり、高校の卒業式が中止となる経験をしてきており、ようやく晴れの日を迎えた喜びの笑顔があふれていました。



昨年、コロナ感染拡大で延期になった成人祭でしたが、今年は、リースイスキー場も再開し、明るい話題の中、新しい2022年のスタートとなりました。



挙の年、市民と野党が力をあわせ、憲法改悪阻止、9条を守り、平和な日本を取り戻すために、奮闘しましょう」等のスピーチがありました。また、市民団体が

### 岸田政権の9条改憲NO! 大軍拡より国民生活守れ

恒例となった1市4町の会主催の新春キャラバンが4日、5日の両日に予定されていましたが、4日(夕張・栗山)は豪雪のため残念ながら中止になりました。5日は雪はやんだものの、冷え込みの厳しい中実施され、由仁・長沼・南幌の3町で訴えました。

共産党からは、大竹登由仁町議、薮田亨長沼町議、熊木恵子南幌町議が、立憲民主党は、千葉清美栗山町議が、社会民主党からは、道連幹事長の浅野隆雄さんが参加しました。

「今年、参議院選



### 「憲法改悪を許さない 全国署名」に協力を!

2を占め、岸田首相は、9条改憲を積極的にすすめるようしています。また、防衛費が6兆円を超え、大軍拡の歯止めもありません。さらに、敵基地攻撃能力を準備する

「憲法改悪を許さない全国署名」に新たに取り組み、協力をお願いしました。また、今回から「れいわ新選組」もこのキャラバンに参加することになっていましたが、残念ながら今回は、急用のため不参加となりました。



# 国連NGO新日本婦人の会 第53回夕張支部大会開催

2021年12月の班や各会員ができた19日(日)夕張市拠点の限りの力を出し合複合施設「りすた」って、来年初立60年にて、第53回国連Nにつなぐ活動ができG O新日本婦人の会「との挨拶がありました。夕張支部大会が開催されました。

開会にあたり、久夕張労働議長とくま世公子支部長からは、がい桂子日本共産党「この一年間コロナ夕張市委員会委員長禍によって十分な支が出席し、大会に向部活動がでなかつて挨拶しました。たもの、それぞれ



来賓には筒井勇治夕張労働議長とくままた、石岡伸子

新婦人の会道本部長や厚谷司夕張市長のメッセージも紹介されました。その後、一年間の活動報告・会計報告・次年度へ向けての計画が討論され、2022年の方針や役員体制が決定されました。コロナ禍のため、参加人数を絞ったものの開催となりましたが、「平和と暮らし、子どもと女性のしあわせ」のため運動を積み上げ終りました。



## くずさんの 夕張歴史散歩 (171)

石炭博物館模擬坑の火災(番外編⑥)

### 技術の進歩と安全の確保

鉄柱カッパ採成では、木柱にはない危険もあったと言います。つるはし・木柱時代は、先山の経験と勘で作業を仕切っています。木柱もまた、その現場の盤圧の限界を事前に知らせると言います。それを聞きとり補修するのが経験だと言います。(鉄柱は限界ギリギリまで持つが、これを超えたとき一挙に崩落になる)

### 危険と服装、装備の変化

炭鉱労働者の服装もはじめ半纏・脚絆・わらじ、シカタビから、つま先に固い金属をいれて覆った「保安靴」と変化し、落石による足の怪我を防ぎます。また保安上、頭を守ることは鉄則でした。初めはズック製の帽子でしたが、これもヘルメットになり「安全帽」となりました。これには氏名が記されていました。ちなみに裸で作業するのは厳禁でした。

### 照明の変化

炭鉱坑内は、文字のとおり「一寸先は闇」ですから、照明は唯一の頼りです。当初はカンテラの裸火から、幾多の変遷を経て充電式のキャップライトになっています。キャップライトは個々に携帯する蓄電器から電気を取り、広角焦点で足元から広く照らすようになっていました(運搬員のもとは遠くまで見通せる長焦点のものを使用、切り替え可能)。係員など職制は青、鉱員は黒に塗られたキャップライトと区別されていました。蓄電器は、出坑したならばすぐに充電盤の同じ番号のところにセットして充電することになっていました。それゆえに充電盤を見れば誰が出坑したか、まだ坑内にいるのかが判るようになっていました。事故の際に判別に利用されました。



紙智子「国会かけある記」  
参議院議員  
紙智子

### 困っている人に寄り添う

日本列島に寒波が押し寄せ厳しく冷え込み、コロナ禍で例年になく年末年始です。元旦は衆議院比例予定候補の畠山和也さん、伊藤りち子さんと白石区の白石神社前、清田区の厚別神社前での街頭宣伝からスタートしました。

仕事初めの4日は、札幌駅前朝宣伝。新春の諸行事が中止になる中、感染への細心の注意を払いながら、団体訪問を行いました。コロナの影響が大きい観光・旅行業の(株)旅システムでは、国の支援策や経営状況、要望等をお聞きしました。同業者8社で持続化給付金の再給付、雇用調整助成金のコロナ特例の延長・増額等を求めるアピールを発表するといっています。北海道の種の会の皆さんが、遠方から駆けつけてくださり、昨年の種苗法改正案の論戦と運動、今後の課題について意見交換、今後に生かします。

北海道難病連センターでは、昨年「保健文化賞」(保健・福祉分野で顕著な実績を残した人に贈られる)を受賞されたお祝いを述べ、増田靖子代表と意見交換しました。「経済は、後から取り戻せても、人の命はもとに戻りません」という言葉が胸に残ります。新婦人、農民連、民医連、道労連等は、困っている人たちに寄り添い、連帯し支えあう活動に取り組んでいます。前に向かい打開しようとする姿に胸が熱くなります。いよいよ1月22日に核兵器禁止条約が発効され、核兵器は違法化されます。今年初の「6の日」行動に参加し、日本で署名・批准を実現させようと訴えました。